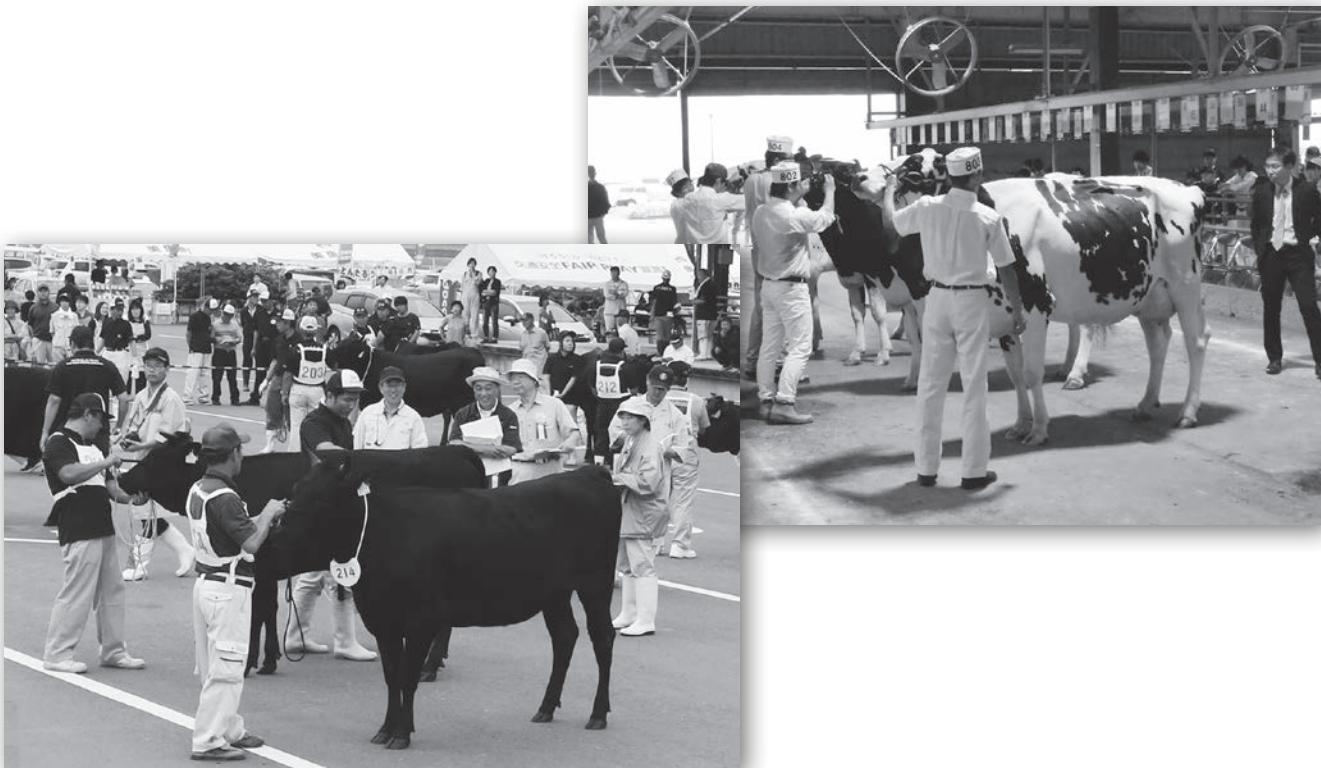


益美やぎ

題字
宮城県知事 村井嘉浩
発行所
仙台市宮城野区安養寺三丁目11番24号
一般社団法人 宮城県畜産協会
電話 022-298-8473
編集発行人
高橋正
印刷所
(株)東北プリント



平成30年度 宮城県総合畜産共進会（美里町 みやぎ総合家畜市場）

もくじ

CONTENTS



みやぎの 畜産情報 発信基地

宮城県畜産協会ホームページ

U R L <http://miyagi.lin.gr.jp>

畜産みやぎは上記ホームページからもご覧いただけます。



€70

平成30年度宮城県総合畜産共進会盛会裡に終了

一般社団法人宮城県畜産協会

農林水産祭参加 平成30年度宮城県総合畜産共進会（肉豚の部・肉用牛の部・乳用牛の部）を、以下のとおり開催し、お蔭様をもちまして盛会裡に終了いたしました。

【開催期日】

- ・肉豚の部 9月5日～7日 宮城県食肉流通公社（登米市）
- ・肉用牛の部 9月14日～15日 みやぎ総合家畜市場（美里町）
- ・乳用牛の部 9月25日 みやぎ総合家畜市場（美里町）

【各部の出品頭数】

- ・肉豚の部 第1区35セット70頭、第2区28セット56頭、合計63セット126頭
- ・肉用牛の部 単品52頭、群出品9組26頭、合計78頭
- ・乳用牛の部 未経産牛33頭、経産牛16頭、合計49頭

なお、各部の上位受賞者及び審査報告（抜粋）は下記のとおりです。

【肉豚の部】

枝肉重量の平均は75.2kg、格付け「上」の重量範囲内の頭数は113頭でした。

枝肉は、外観において均称・肉付きがやや不足で、脂肪付着・腰部脂肪の厚いものが多く見られました。

肉質においては、枝肉重量と脂肪付着の増加により、1区・2区ともに肉の色、光沢良好であり、きめ細やかで脂肪質の良いものが多く、肉質評価の高いものが多く見られました。

今後とも、四季折々に適応した飼養管理に十分留意され、消費者が求める品質の優良な安全でおいしい豚肉の生産にご研鑽をお願いします。

<p>【名誉賞】 第1区（ミヤギノクロス三元交雑種） 農林水産大臣賞 宮城県知事賞 登米市 星 俊之 氏</p>	
--	--



登米市
星 俊之 氏

<p>【名誉賞】 第2区（第1区以外の肉豚） 農林水産省生産局長賞 宮城県議会議長賞 登米市 佐々木 昭 氏</p>	
--	--



登米市
佐々木 昭 氏

- ・東北農政局長賞 第1区（ミヤギノクロス三元交雑種）
登米市 小野寺 信治 氏
- ・団体賞 登米地区

地方競馬全国協会からのご案内

「地方競馬の馬主になりたい！」という方は地方競馬全国協会までご連絡下さい。

地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト (<http://www.keiba.go.jp/>) でもご覧になれます。

(担当：審査部登録課 電話 03-3583-2142)

【肉用牛の部】

今年は、昨年開催された第11回全国和牛能力共進会宮城県大会後の初の県共進会であり、次期の鹿児島大会に向けた意気込みが感じられる出品でした。

全体として発育が良好で、体積、伸び、種牛性に富む種牛でありました。しかし問題点として、後肢の弱さや被毛の荒いものも散見されました。

今回、各区において、「茂洋」の息牛である「好平茂」及び「勝洋」の産子が多数出品されましたが、1区において、同じく「茂洋」の息牛である「茂洋美」の産子が出品されました。次代を担う種雄牛産子の出品で、宮城県の肉用牛振興において「茂重波」系統の活躍が期待されるところです。

〔【名誉賞】 第2区（若雌の2）
農林水産大臣賞
宮城県知事賞 登米市 石川 信喜 氏〕



登米市
石川 信喜 氏

〔【名誉賞】 第4区（高等登録群）
農林水産省生産局長賞
宮城県議会議長賞 栗原和牛育種組合〕



【東北農政局長賞】 第1区（若雌の1）
登米市 小野寺 正人 氏
【団体賞】 登米地区
栗原和牛育種組合

【乳用牛の部】

未経産は総体的に発育が良く、品位に富み、輪郭鮮明でバランスの良い牛が多く、特に、体躯・乳用性に優れた牛が散見されました。

経産牛は、バランスが良く、肋腹が充実しており、背線美しく輪郭鮮明で品位のある牛が多く、特に乳房の付着の強さなど乳房における改良の成果が見られました。

平成32年に宮崎県において開催される「第15回全国ホルスタイン共進会」に向け、引き続き計画的な交配と飼養管理の徹底をお願いします。

〔【名誉賞】 第10区（5歳以上）
農林水産大臣賞
宮城県知事賞 丸森町 (有)半澤牧場〕



丸森町
(有)半澤牧場

〔【名誉賞】 第3区（12ヶ月以上16ヶ月未満）
農林水産省生産局長賞
宮城県議会議長賞 大崎市 八卷 誠 氏〕



大崎市
八卷 誠 氏

【東北農政局長賞】 第8区 大崎市 八卷 誠 氏
【団体賞】 大崎地区

仙台市中央卸売市場食肉市場業務開始43周年記念枝肉共進会の受賞結果について 仙台中央食肉卸売市場株式会社

仙台市中央卸売市場食肉市場において、7月4日(水)に仙台市中央卸売市場食肉市場業務開始43周年記念事業協賛会主催の枝肉共進会が、肉牛250頭・肉豚400頭上場で開催され盛会裡に終了いたしました。関係者各位に改めて御礼申し上げます。

厳正な審査により入賞された方々を紹介いたします。

なお、所属団体、出品者名、枝肉重量、せり単価の順で記載いたします。

【第1部 黒毛和種(去勢)の部】

褒賞	所属団体	出品者名	枝肉重量(kg)	せり単価(円)
名 賞	JAIしのまき(河南)	(株)川村ファーム	603.0	5,501
	一般	(有)うしちゃんファーム	574.0	5,001
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 高橋忠夫	618.5	3,453
	JAみやぎ登米(迫)	(有)高橋畜産	651.5	3,368
	JAみやぎ登米(南方)	渡辺 恵一	532.5	3,300
最優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 川村大樹	631.5	3,800
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム	642.5	3,089
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 高橋浩	621.5	3,203
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 高橋浩	531.0	3,352
	JAみやぎ登米(南方)	(株)川口ファーム	624.0	3,263
	JAいしのまき(河南)	(株)川村ファーム	598.0	3,304
	JAみやぎ仙南(藏王)	遠藤 貢	573.0	3,005
	JAみやぎ仙南(藏王)	平間 栄	584.5	3,001
	JAみやぎ仙南(藏王)	(株)開沼ファーム	611.0	2,963
	JA栗っこ(金成)	山家 賢藏	596.5	3,409
【第2部 黒毛和種(雌)の部】				
褒賞	所属団体	出品者名	枝肉重量(kg)	せり単価(円)
名 賞	仙台市場出荷組合	千葉 昌史	502.5	5,002
最優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	467.0	3,101
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 伊藤修二	465.0	3,019
優秀賞	一般	(有)うしちゃんファーム	478.0	4,004
	JA栗っこ(高清水)	佐藤 昭	421.0	2,925
	JAみやぎ登米(米山)	小泉 昭七	433.5	3,136
	宮城家畜商出荷組合	(株)川村ファーム 今野誠善	450.0	2,888
【第3部 交雑種(去勢・雌)の部】				
褒賞	所属団体	出品者名	枝肉重量(kg)	せり単価(円)
名 賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	538.0	2,019
最優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	608.0	1,609
優秀賞	宮城家畜商出荷組合	(株)日高見牧場	663.5	1,598
【第4部 肉豚の部】				
褒賞	所属団体	出品者名	枝肉重量(kg)	せり単価(円)
名 賞	一般	(有)コマクサファーム	76.0	2,002
最優秀賞	一般	(有)なわや	76.5	956
	一般	(有)コマクサファーム	77.5	954
	太平洋ブリーディング(株)	(有)ハイルンド牧場 山田預託農場	78.0	958
優秀賞	一般	(株)シムコ東日本営業所 岩出山事業所	76.0	860
	一般	(農)高清水養豚組合	75.5	858
	丸山(株)	(有)日向養豚	77.5	856
	太平洋ブリーディング(株)	(有)ハイルンド牧場 山田預託農場	77.5	856
	昭和畜肉研究会 昭産商事(株)仙台支店	伊藤 重雄	76.0	858
	JA栗っこ(一迫)	千葉 房義	75.5	860

(営業二課 清野)

NAR 地 方 競 馬 全 国 協 会 岩手競馬(盛岡・水沢開催) 10・11月 開催予定表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
10月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
月	盛岡						盛岡							盛岡					盛岡									盛岡		
11月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
月		盛岡						水沢							水沢				水沢									水沢		

※開催期間中の重賞レース

- ・10/6(土) 第18回ハーベストカップ ・10/8(月) 第31回マイルチャンピオンシップ南部杯 ・10/14(日) 第38回若駒賞
- ・10/20(土) 第8回OROターフプリント ・10/21(日) 第50回不來方賞 ・10/28(日) 第9回知床賞 ・11/4(日) 第8回紳カップ
- ・11/12(月) 第46回南部駒賞 ・11/18(日) 第31回ダービーグランプリ ・11/26(月) 第35回プリンセスカップ

農林水産祭参加第58回仙台牛枝肉共進会の開催について

全農宮城県本部 畜産部

農林水産祭参加第58回仙台牛枝肉共進会を下記の内容にて開催することとなりましたので、多数ご観覧くださるようご案内申し上げます。

1. 会期及び場所

- (1) 会期 平成30年11月4日(日)～6日(火)
- (2) 場所 仙台市宮城野区扇町六丁目3番6号
仙台市中央卸売市場食肉市場

2. 出品区分及び条件

- (1) 肥育の完成されたものとする。

部	品種	区分	条件
第1部	黒毛和種	去勢	枝肉重量 390kg～650kg
第2部	黒毛和種	雌	枝肉重量 320kg～550kg

※ただし、瑕疵のある枝肉は審査対象外とする。

- (2) 出品牛は出品者において12ヶ月以上飼養され最長飼養地が県内のものとする。
- (3) 出品牛は血統明確なもので、これを証明する書類(子牛登記書等)を有すること。

3. 出品頭数及び屠畜・販売日

部	品種	区分	頭数	屠畜月日	販売月日
第1部	黒毛和種	去勢	130	11月5日	11月6日
第2部	黒毛和種	雌	50	11月5日	11月6日
計			180		

(生産販売課:畠山和夫)

oo

産業動物臨床シンポジウム 農場におけるB L Vの清浄化に向けた取り組み 宮城県農業共済組合

B L V(牛白血病ウイルス)を原因とする地方病性牛白血病は、届出伝染病になったこともあり近年発症報告が急増している疾病です。有効な治療法及びワクチンはありません。ウイルスに感染し病態が進むと2～5パーセントの確率で発症します。発症した牛は全廃棄となり大きな経済損失となります。

本病の衛生対策として農場内の浸潤状況を把握し感染ルートを遮断していくことが示されていますが、個々の農場のみの対応では効率的かつ効果的に清浄化を進めることは困難で、家畜の飼養者、家畜保健衛生所の職員、獣医師、家畜人工授精師、関係機関等が一体となって清浄化に取り組む必要があります。

このシンポジウムでは、現在進められている最新の研究状況を踏まえて、産業動物臨床の最前線で活躍する獣医師が、農場管理の観点からどのようにB L V清浄化に向けた取り組みを展開していくかを探っています。一般の方も参加できますが、事前の申込み(10月31日まで)が必要です。

- 日時：平成30年11月16日(金) 午後1時30分から
- 場所：秋保温泉 ホテル岩沼屋会議室
- ⟨シンポジスト⟩
 - 間 陽子 氏(国立研究開発法人理化学研究所)
 - 松田 敬一 氏(宮城県農業共済組合家畜診療研修所)
 - 一條 俊浩 氏(岩手大学農学部)
- ⟨コーディネーター⟩
 - 酒井 淳一 氏(東北農場H A C C P研究会)
- 主催等：日本獣医師会、宮城県獣医師会、N O S A I 宮城
- お問合せ・参加申込：N O S A I 宮城家畜部 古内
電話022-225-6781
(平日の午前8時30分～午後5時まで)

(家畜部 古内稔悦)

子育て応援団 すこやか2018の開催について



子供を楽しく育てることのできる社会環境づくりを目指し、地域・行政・子育てに関わる団体・企業・ボランチティアなど、産官民による応援団を結成し「来場者が楽しい時間を過ごす中から、子育ての助けになるものをひとつでも持ち帰っていただく」機会の提供を目的として実施します。

会場は4つのゾーンに分かれており、子育てに役立つ情報が盛りだくさんで、工作やスポーツ体験コーナーがある「子育てサポートゾーン」、作って食べて命を育む「食育」を体験することのできる「食育ゾーン」、お仕事体験やゲームで楽しめる「知育ゾーン」、これからパパ、ママになる方への体験・相談コーナーの「プレパパ・プレママコーナー」があります。野外会場には、乗り物が大集結します。

ステージイベントでは、20日(土)にお笑いライブ、21日(日)には、赤ちゃんハイハイレース、それいけ！アンパンマンショーが行われます。

また、当協会のブースでは美味しい牛乳を試飲できるコーナー、手作りバター教室、野外ブースでは、牛や小動物と触れ合うことのできる搾乳体験コーナー、動物ふれあいコーナーがあり、お子さんが楽しめるコーナーが盛りだくさんの内容となっております。

是非、お子さんを連れて、みなさんご来場下さい。

- 開催日：平成30年10月20日(土)～21日(日)
- 時 間：10:00～16:00
- 場 所：セキスイハイムスーパーアリーナ（グランディ・21体育館）
- 駐車場：有

(宮城県牛乳普及協会 飯塚大智)

「みやぎまるごとフェスティバル2018」への出展について

宮城県食肉消費対策協議会

今年で19回目を迎えた「みやぎまるごとフェスティバル」へ消費者の方に安全・安心な宮城県産食肉の知識と情報を普及啓発するため出展いたします。

当日は、牛政宗くんと共に、「知っていますか？牛トレーサビリティ制度」、「知っていますか？食品表示」の情報普及啓発、また、「仙台牛」「宮城野ポークみのり」「しもふりレッド」の紹介に関するパネル展示とパンフレットの配布を行い消費者へPRするとともに、アンケート回答者へ「仙台黒毛和牛」と「しもふりレッド又は宮城野ポークみのり」

の試食（焼肉）を1日5回、2日間で800名様に味わっていただきます。

みやぎまるごとフェスティバルは、総出展団体が106団体、宮城県産品の即売会や清酒鑑評会が行われ一日中楽しめるイベントです。

多くの方の来場をお待ちしております。

開催日：平成30年10月20日(土)～21日(日)

会 場：勾当台公園

(事務局：一般社団法人宮城県畜産協会)

平成30年度宮城県家畜商講習会について

宮城県農林水産部畜産課

本県では、家畜商講習会を2年に1度開催しており、今年度は下記のとおり開催いたします。

受講を希望される方は、10月26日(金)までに必要書類を添えて、各家畜保健衛生所、北部地方振興事務所栗原地域事務所畜産振興部又は東部地方振興事務所畜産振興部に申請してください。

1 期日

平成30年11月27日(火) 及び28日(水) の2日間

2 場所

宮城県畜産試験場（大崎市岩出山南沢字樋渡1）

3 講習科目及び講習時間

①家畜の取引に関する法令	4 時間
②家畜の品種及び特徴	4 時間
③家畜の悪癖、機能障害及び疾病	6 時間

4 受講手数料

宮城県収入証紙3,700円

5 提出書類

講習會受講申認書

(3,700円分の宮城県収入証紙を添付)

※家畜商法施行令第1条の4第1項ただし書きの規定による講習時間の特例措置を受けようとする者は、申込書に加え、講習時間の特例措置適用申請書、獣医師免許証または家畜人工授精師免許証の写し

6 テキスト

(株)ぎょうせい「最新版家畜取引の知識」(税込3,497円)テキストは、講習会初日の受付時に販売いたします。既にお持ちの方は御持参ください。

7 問い合わせ先

各家畜保健衛生所、北部地方振興事務所栗原地域事務所畜產振興部、東部地方振興事務所畜產振興部、畜產課企画管理班

(企画管理班 浅野佑太)

肉用牛肥育経営安定特別対策事業（牛マルキン）について

(一社) 宮城県畜産協会

肉用牛肥育経営安定特別対策事業（牛マルキン）の平成30年4月～6月の補填金単価が確定しましたのでお知らせいたします。

また、7月の補填金単価（概算払）について、平成30年9月11日付けで公表されました。確定値については、(独)農畜産業振興機構より、11月上旬に公表される予定です。

販売月	肉専用種	交雑種	乳用種
4月 確定値	—	60,800円	38,000円
5月 確定値	20,500円	54,300円	23,500円
6月 確定値	28,300円	75,000円	21,900円
7月 (概算値)	(3,500円)	(67,600円)	(22,600円)

(経営支援課 庄司 清文)

鳥インフルエンザ発生を 未然に防ぐために

宮城県農林水産部畜産課

今年も渡り鳥の飛来が本格化する季節がやってきました。国内における鳥インフルエンザの直近の発生は、平成28～29年に宮城県ほか11件、平成30年1月に香川県で確認されました。関係者の協力の下、迅速かつ的確な初動防疫が実施された結果、感染が周辺農場に拡大することなく適切にまん延防止が図られました。

一方で、本年4月に公表された「平成29年度における高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査報告書」によると、「国際的な動向をみると、アジアのみならず欧州でも発生が継続して確認されており、ウイルスを保有した渡り鳥がアジアを含む様々な地域から営巣地や中継地に飛来し、翌秋以降、渡り鳥の飛来とともに我が国にウイルスが持ち込まれることが懸念されることから、今後とも、本病の発生リスクが高い」とされており、今秋以降も、引き続き厳重な警戒が必要と考えられます。

家きん（鶏・あひる・うづら等）飼養者の方は次の点に注意し、本病の発生を未然に防ぎましょう。

- 1 衛生管理区域や家きん舎内へのウイルスの持込防止
 - ・農場を衛生管理区域とそれ以外の区域に区分けし、必ず専用の衣服、長靴を着用しましょう。
 - ・車両消毒設備や踏込消毒槽、手指消毒薬を常設し、車両、長靴、手指等の消毒を実施しましょう。
 - ・野生動物や野鳥の侵入防止のため、防鳥ネット等を設置し、定期的に破損状況を確認し、補修しましょう。
 - ・家きん舎の給餌設備、給水設備、飼料の保管場所等に野生動物や野鳥の侵入防止を図るとともに、糞尿が混入しないようにしましょう。
- 2 日常の家きんの健康観察
 - ・毎日、家きんの健康観察を行いましょう。
 - ・特に、家きんを導入する際は、異常がないことを確認するまで、他の家きんと接触させないようにしましょう。
- 3 異状家きん発見時の早期通報
 - ・異状家きんを発見した場合は、すぐに獣医師または家畜保健衛生所に御相談下さい。
 - ・緊急時の連絡先を確認し、整理しておきましょう。
- 4 農場立入者等の記録及び保存
 - ・本病発生時のまん延防止のため、衛生管理区域に立ち入った人の氏名、住所、所属、車両等を記録し、1年間保存しましょう。

(衛生安全班 曽地 雄一郎)

〈衛生便り〉 豚コレラの侵入防止に努めましょう

北部家畜保健衛生所

平成30年9月9日、岐阜県の養豚場において、国内では平成4年以来26年ぶりとなる豚コレラの発生が確認されました。

豚コレラは、豚やイノシシが感染する悪性の伝染病であり、強い伝染性と高い致死率が特徴です。家畜伝染病予防法において法定伝染病に指定されており、発生した場合には全頭殺処分となります。

養豚農家の皆様方には、飼養衛生管理の徹底による病気の侵入防止と、早期発見・届出のための監視の強化をお願いします。

①衛生管理の徹底

- 農場を出入りする車両等の消毒を徹底し、病気の侵入防止に努めましょう。
- 食品残渣を飼料として使う場合は、加熱処理をしましょう。
- 畜舎やその周辺に野生動物が侵入しないようにしましょう。
- 定期的な畜舎清掃・消毒に努めましょう。
- 豚の出荷・導入と農場への人や車両の出入りを記録しましょう。

②早期発見・早期通報

常日頃より飼養豚の健康状態を観察し、以下の様な症状が多く見られた場合には、獣医師や管轄の家畜保健衛生所に通報するようにしてください。

- ・発熱、元気消失、食欲低下
- ・便秘もしくは下痢
- ・結膜炎（目ヤニ）
- ・耳、下腹部、四肢等の紫斑（チアノーゼ）
- ・これらの症状を伴った死亡豚の発生

なお、豚コレラは豚やイノシシの病気であり、感染した豚との接触やその肉の摂取によって人に感染することはありません。また、感染した豚の肉が市場に出回ることはありません。

(防疫班 鹿沼憲一)

平成31年度 宮城県農業大学校入校生を募集(一般入校試験前期)

本校は、農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけ優れた農業経営者と農村地域の指導者を育成することをねらいとして昭和52年4月に設立された農業大学校です。

平成20年7月には専修学校の機能を付加し、平成21年4月に校名を「宮城県農業大学校」に変更しました。下記により、平成31年度入学生の入校試験を行いますので、多数の出願をお待ちしております。

記

◇募集人員(推薦入校試験分を含む)

畜産学部 15名、水田経営学部 15名、園芸学部 15名、アグリビジネス学部 10名

◇応募資格 高等学校卒業者(平成31年3月卒業見込みの者を含む)又はこれと同等以上の学力があると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者

◇募集期間 平成30年11月8日(木)

～平成30年11月22日(木)(当日消印有効)

◇試験日時 平成30年12月7日(金)午前8時45分～

◇合格発表日 平成30年12月14日(金)午前10時

◇試験場所 宮城県農業大学校名取教場

◇試験科目 ①筆記試験 国語総合(60分)

数学I(60分)

小論文(60分 800字)

②面接試験 個人面接(15分程度)

◇専修学校のメリット

①卒業生に「専門士(農業専門課程)」の称号が付与されます。

②卒業生は、4年制大学への3年次編入学試験の受験が可能となります。

◇奨学金制度

①本大学校を卒業後、就農を予定されている方は、公益社団法人みやぎ農業振興公社から奨学金(1.5万円/月)の支給を受けることができます。(※宮城県内に4年以上就農しない場合は返還の必要があります。)また、本大学校の養成課程は、国の事業である農業次世代人材投資事業(準備型)の対象になります。

②(独)日本学生支援機構の奨学金が利用できます。

※詳しくは、宮城県農業大学校教務部学生班・教務班(電話022-383-8138)までお問い合わせください。

〈農業大学校生の抱負〉

将来への歩み

宮城県農業大学校
畜産学部2学年 武山 万里



私の家は非農家で、農業とはほぼ縁のない生活を送っていました。農業に興味や関心はありませんでした。そんな私が農業に惹かれたきっかけは、高校での実習、授業です。私は動物が好きなこともあり、もともと動物園の飼育員を目指しており、動物の飼育管理を学ぶために宮城県農業高等学校へ進み、畜産を専攻しました。高校での実習や授業を通して、それまで関わりのなかった農業の知識を深めていく中で、農業は遠い場所にあるようでは実際は身近にあることを実感しました。また、それと共に農業の魅力に気づくことができ、興味や関心を持ちました。そして先生や友人と進路の相談をする中で、「せっかく貴重なことを学べたのだから、それを活かせる仕事に就けばいい」という助言をもらいました。その言葉をきっかけに将来は畜産関係、その中でも酪農関係に進もうと決心し、そのため必要である専門的な資格や知識、技術を身につけるために宮城県農業大学校への進学を決めました。

1学年ではそれぞれ班に分かれて野菜を育てる農業基礎実習、各学部に分かれて実習や講義を行う専攻実習、作物・園芸・畜産・アグリビジネスの基礎を学ぶ講義など、農業について幅広く学びました。また、大型特殊、簿記などの農業を行う上で必要な資格を取得しました。9月に行われた先進農業体験学習は、三十三日間農家に泊り込みでの実習をしました。私は七ヶ宿町にある酪農家にお世話になりました。実際の農家の1日の動きというものを知らなかつたため、三十三日間初めての出来事が続き、貴重な経験ができた上、とても楽しく充実した実習となりました。

2学年の現在、酪農を専攻し、毎朝乳牛の飼養管理をしています。さらに畜産に関する専門的な講義に取り組み、家畜(牛)人工授精師やけん引といった資格を取得しました。

私は大学校を卒業後酪農関係の仕事に就職し、学んだことを最大限に活かすこと少しでも宮城県の畜産振興を支えられる人間になりたいと考えています。

〈県内学校農業クラブの取り組み〉

宮城県加美農業高等学校の取り組みについて



宮城県加美農業高等学校
農業科3年 松本 蓮

国連食料農業機関（FAO）により、平成29年12月12日に世界農業遺産の認定を受けた宮城県中北部に位置する大崎耕土。本校はその西側、船形山の裾野に広がる色麻町に位置します。本校は明治34年に開校し、今年創立117年目を迎えました。昭和39年に文部省により第1号の農業経営者養成高等学校（パイロットスクール）の指定を受け、農業専門の高校として現在に至っています。

現在本校で畜産を学ぶのは本校畜産専攻生3年生3名、2年生8名、並びに食農科学部飼育班3名です。本校での畜産に関する学習は畜産専攻学習で行われ、さらに特別活動で深い畜産に関する知識と多くの技術を高めることができ、畜産のスペシャリストを目指して日々学んでいます。そして、食農科学部の主たる活動は共進会への出場です。そこでより良い成績を取めるため、出陳牛の飼育から、手入れ、調教を熱意持って行っています。平成27年度には10年ぶりに開催された全日本ホルスタイン共進会北海道大会に参加する栄誉を頂くことができました。本校として、初の全国大会出場ということもあり、大会期間中参加した生徒達は、夜も寝られずに除糞や水やりなどをしたと聞きます。それを暖かく支援してくれたのは同じく出場した宮城の皆さんでした。そうして生まれた縊は一生の宝となったということです。出場生徒がこのようなコメントを残しています。「今までに味わったことのない酪農の魅力を知ることが出来た。」全共という大舞台に立ったから見える景色や多くの方々との関わりを経て、酪農の可能性を大いに感じたのではないでしょうか。昨年は全国和牛能力共進会に向けた県大会に出場し、私は和牛経営にも興味を持ち、さらに深い学びを得るために進学も視野に入れています。

今年度の農業クラブは、家畜審査競技大会と研究活動であるプロジェクト発表に向けての取り組みに力を入れています。家畜審査競技については地元や大崎管内の農家の皆さんにご指導頂いたり、授業の中で競技会出場に向け先生に教えていただきながら出場しました。選手に選ばれた私を含め、どちらの部門も団体優勝、個人最優秀賞を獲得することができました。特に私は個人最優秀賞をいただき、宮城県の代表として鹿児島県で行われる農業クラブ全国大会肉用牛の部に出場するため日々学習しています。

次にプロジェクトについてですが、本校では現在大きく分けて2つの取り組みをしています。一つ目は酪農教育ファーム活動です。平成26年に酪農教育ファームとしての認証を受け、毎年、被災地の小学生を勇気づける支援や、食の大切さと命の尊さ、酪農の素晴らしさについて伝える活動を行っています。昨年は仙台市八幡小学校から依頼を受け前体験授業を行いました。それがきっかけとなり、小・中学生にどのようにしたら酪農教育活動の目的をよりよく果たせるのか、参加者に伝える方法や体験プログラムを検討するプロジェクトを行っています。

2つ目は養豚に関する研究です。豚に地域の特産エゴマ油の搾りかすを与え、健康な豚を作ることだけでなく、美味しく、食べた人が健康になる機能性豚肉を生産する研究を行っています。この研究をするきっかけは、わが町色麻町の産業構造を調べたことです。色麻町の産業は様々ありますが、農業がこの街を支えているのだということがはっきりとわかりました。農業の担い手不足が深刻であるため、農業自体や、色麻町の農業に興味を持ってもらったりできる活動として研究を始めました。さらに豚肉販売会社カミートを立ち上げ、その研究に取り組んでいます。現在、実験と検証を繰り返し、味もよく、機能性の高い α リノレン酸が通常の豚肉の4倍から5倍含まれる豚肉が出来上がりつつあります。 α リノレン酸は動脈硬化などに効果があり、さらには体内でDHAに変換されるほか、脂肪燃焼にも効果があることから、食べても太りにくいダイエット豚肉が出来上がるのではないかと期待して研究を進めています。

以上が加美農業高等学校畜産専攻生における農業クラブ活動です。全ての活動において地域や県内の農家の皆さん、各機関の皆さんに協力をいていただいていると思います。この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。私たちは将来畜産に関わっていくため今後もさらに畜産を学びつつ人間性を高めていきたいと考えています。これからもうぞよろしくお願ひ致します。



<New face>



宮城県農業共済組合
県北家畜診療センター
課長補佐 鹿子嶋孝之

平成30年4月から宮城県農業共済組合でお世話になっている鹿子嶋孝之です。

出身は群馬県前橋市で、出身大学は日本獣医畜産大学です。大学卒業後、大分県にあるサファリパークで4年間働きました。その後福岡県北九州市の職員として、食肉センター、保健所、家畜診療所で働きました。

北九州市では北九州市立総合農事センターという



宮城県農業共済組合
中央家畜診療センター
技師 下夕村幸薰

4月から宮城県農業共済組合に勤務しています下夕村幸薰と申します。

私は北海道十勝にあります豊頃町という自然豊かな小さな町の出身で、大学6年間は

帯広畜産大学で過ごしました。大学時代は大動物臨床系の研究室に所属し、主に牛や重輶馬の診療のお手伝いが日常の活動の一つでした。

私は生まれも育ちも北海道で、今まで道外で生活



宮城県農業共済組合
県北家畜診療センター
技師 水野 桃子

はじめまして。今年度より宮城県農業共済組合県北家畜診療センターに配属されました、水野桃子と申します。出身地は東京都、出身大学は日本大学です。大学在学中は伝染病学研究室に所属し、牛白血病をはじめとする牛のウイルス病についての研究を行っていました。

大学入学まで牛とはほとんど縁がなく、産業動物臨床獣医師という職域を知ったのも大学に入ってか

職場に家畜診療所があり、診療だけではなく畜産振興全般を業務としていたので、補助事業、畜産関連制度融資等、また普及センターや農協と共に生産指導もしていました。職場には繁殖和牛、肥育和牛、木曽馬、山羊、鶏も飼育しており、生まれた子牛は市内農家に販売していました。

福岡県は九州の中では畜産は盛んな地域ではありませんでしたが、九州ということもあり和牛ばかりでした。宮城では、また違った環境、血統の和牛を見る事ができるので、自分の和牛に関する知識を深めながら、宮城県の和牛生産に少しでも貢献していきたいと思っています。

したことがなかったため、宮城県に来て気候や産業などのさまざまな環境の違いに驚いているところです。なかでも十勝には稻作はほとんどなく酪農と畑作が多くを占めていたので、はじめて宮城県に来て田んぼが一面に広がっている光景を見たときには感動すらありました。今は収穫前の一面黄金色の景色を見るのがとても楽しみです。

大学を卒業したばかりで、臨床獣医師として知識や技術もまだ未熟ではありますが、先輩や農家の方、関係者の方から様々なことを学び、確実に吸収して成長していきたいと思っています。そして少しでも農家の方のお役に立ち、また宮城県の畜産業に貢献できるように頑張ります。

精一杯努力していきますので、これからどうぞよろしくお願ひいたします。

らでしたが、大学3年生のときに初めて農業共済の学生実習に参加した際に、農家の方々と真摯に向き合い、経営を支える獣医師の先生方の姿を見て、私も農家の方々や畜産業を支え、貢献していく仕事をしたいと考えるようになりました、産業動物臨床の道に進みました。

経済動物である牛を診療する難しさを日々痛感しておりますが、診療の中で毎日新しい発見があり、とてもやりがいを感じています。牛の治療はもちろんですが、疾病の予防にも努め、牛が健康に過ごせるように尽力したいと思っています。

まだまだ未熟で至らない点もありますが、産業動物獣医師として農家の方々の思いに寄り添い貢献できるよう、日々精進していく所存ですので、皆様ご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

〈畜試便り〉

宮城県養豚研究会 平成30年度第1回研究集会について

宮城県畜産試験場

平成30年7月27日、宮城県養豚研究会（事務局：宮城県畜産試験場）主催による平成30年度第1回研究集会が大崎生涯学習センター（パレットおおさき）にて開催されました。本研究会は、養豚に関する研究の促進並びに技術の普及を図り、養豚の振興に寄与することを目的として活動し、毎年2回の研究集会を開催しています。

今回の研究集会には、59名の参加があり、「養豚経営におけるICT（情報通信技術）の活用について考える」をテーマに、ICTをはじめとした農業現場における省力化技術に関する3題の講演がありました。また、総合討論では、ICTの養豚現場への活用方法について、議論が活発に交わされました。

最初に、当場の副主任研究員 高森が「宮城県内の養豚農場における省力化技術の活用状況」をテーマに、県内の養豚農場がどのような作業を省力化しているのかアンケート調査を行い、その結果を報告しました。母豚100頭以上を飼養する養豚場では、7割以上の養豚場で、「給餌」「除糞・清掃」「糞尿処理」「育成データの管理」の作業を機械化しており、今後省力化を行いたい作業は、「体重測定」と回答した養豚場が多くありました。

続いて、株式会社中嶋製作所の渡邊敬氏より「豚舎洗浄ロボット」をテーマに、同社が開発した豚舎を自動で洗浄するロボットについての説明がありました。このロボットは、4mのアームを有し、洗浄動作を記憶させれば、無人で洗浄作業を行うことが可能で、作業者は、洗浄に当ってきた時間と労力を飼育管理に注ぐことで、生産性の向上を目指すことができるとのことでした。

最後に、株式会社NTTドコモ東北支社の金田直子氏より、「農業分野におけるICTの利活用」をテーマに、農業分野におけるICTの活用事例や実証試験についての講演がありました。畜産分野では、現在、「牛温恵（ぎゅうおんけい）」に代表される牛の繁殖管理へのICTの活用が注目されていますが、養豚分野では、「養豚管理システム」（繁殖成績などのデータ管理）、「環境モニタリング」（豚舎内の温湿度を測定、データを収集）、「豚の体重推定アプリ」（スマホによる撮影で体重を推定）の3つのシステムとICTを活用した実証試験が進行中で、今後の実用化が期待されているとのことでした。

次回の平成30年度第2回研究集会は、「GAP」をテーマとして、平成31年2月の開催を予定しています。

（種豚家きん部 高森広典）

